

キウイフルーツ花腐細菌病の結果母枝別発病調査
および薬剤による防除について

衣川勝・大熊正寛

キウイフルーツ花腐細菌病について、発生状態の調査と薬剤防除試験を実施し、次の結果を得た。

1. 結果母枝として、前年結果しなかった徒長枝および突発枝を用いた場合、前年結果した中果枝や短果枝を用いた場合より本病の発生が多かった。
2. 無接種、無防除の条件下では、本病の発生は香緑が最も少なく、ヘイワードはやや多く、ブルーノは最も多かった。
3. 各種薬剤の防除効果試験では、コサイドボルドー水和剤(クレフノン効用)の効果が最も高かった。しかし、5月上旬散布では葉縁および果実に褐変が見られた。次いで、コサイドボルドーおよびアグリマイシン100両水和剤の組み合わせによる防除効果が高かった。
4. 時期別散布試験では、3月下旬から4月下旬にかけての2回散布が最も防除効果が高かった。また、11月下旬の1回散布でも防除効果が認められた。